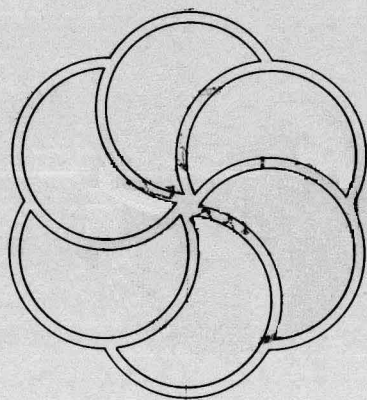


日本の
思想家
名言事典

伊藤友信
佐藤正英
峰島旭雄

編



雄山閣

序

生きるということは単に生きることではなく、よりよく生きることにはかならない。このことは先哲賢者もしばしば指摘するところである。われわれは、よりよく生きるためにはいかに生きていくか／＼を問い続けることを必要とするであろう。その生き方は人間ひとりひとりが自己存在としての人間を確認しつつ生きていく知恵である、といってもいいのではなからうか。よりよく生きるには知恵がいる。

名言といわれる優れたことばは、われわれに、そうした人間の生き方、在り方にかかわる知恵を教示してくれるものである。名言は人生の指針として、たえず日常生活の中に生かされなければならぬ。「私は知恵を貨幣に鑄造したい」という、ある哲学者のことばがある。このことばは知恵を日常に使用する貨幣とし、それを生活の中に使用していくべきことを説いていると理解してもよからう。われわれは名言を通して先哲賢者の体験を追体験し、生きるためのエネルギーをたくわえることができる。

しかし、名言も、その理解と受け止め方によっては、人びとをしばしば固定化することがある。なぜだろうか。それは名言を教条的に把握し、できあがったことばのみに注目して、そのよって成るプロセスを考えないからである。名言を知ることによってかえって柔軟性を喪失し、よりよく生きる活力をなくしてしまうような、害あって益なき結

果をまねくことも、そこから生ずる。

ここに上梓する『日本の思想家名言事典』は、そうした問題点を考慮して編集・執筆されたものである。文字どおり日本の偉大な思想家の残した名言を集めたものである。しかし、人口に膾炙かいしやしている名言のみならず、よりよく生きるための知恵となりうることであれば、馴染なじみうすいものでも積極的に選ぶことを心がけた。解説では、名言の生まれたプロセスを十分に把握することができるよう配慮し、できうる限り前後のことを引用し、その文脈の中で理解できるように試みた。また思想家の生涯と思想についても、紙面の許す限りくわしく述べることにした。できあがった名言のみに注目して、せっかくの知恵を無駄にしないためである。この点は本事典の特色のひとつである。

さらに、検索に便利なように名言のテーマを明示した目次および名言語句索引を作成した。簡略ながら概括的時代思想を記した「日本思想史年表」も付してあるので、単に断片的に名言を受容するにとどまらず、日本思想史をみずから再構成しつつ、しかも人生の知恵を体得していくことができるであらう。これも本事典の特色といえる。

さいわいにして、このような特色を有する本事典が多くの読者を得て、少しでも人生の知恵を得ていただけるならば、編者にとってこの上ない喜びである。

終りに、執筆者各位の協力と努力に対し、また事典の編集にあたって激励と助力を惜しまなかった雄山閣編集部
の芳賀章内氏、佐野昭吉氏に対して深甚の謝意を表する次第である。

伊藤友信

佐藤正英

峰島旭雄

昭和五十八年九月吉日

凡 例

一、名言（本文中のゴチックの部分）は構成上、大・中・小項目に分類した。大・中項目には現代語訳（大意）と解説を付し、大項目の後に生涯と思想・主要著作・参考図書に掲載した。小項目は現代語訳のみとした。

一、名言は原則として原文のままとしたが、原文がカタカナ書きの場合、詩などを除いては平仮名に改めた。ただし、解説中の引用文については、原文のままとした。

一、名言の中で、体裁上、漢字を平仮名に改めたものがある。また「こゝ」「たび／＼」などの踊り字は「ここ」「たびたび」とした。

〔例〕 也 → なり

一、名言の仮名遣いについては、引用著作原文に従ったので、本来は歴史的仮名遣いであるべきもので現代仮名遣いになっているものがある。また、とくに読みにくい場合には、送り仮名を付け加えた。

〔例〕 ……悲で → ……悲しんで（福田行誠）

一、名言には、それぞれ現代語訳あるいは大意をつけた

が、とくに必要ないと思われるものは省略した。

一、長い名言については、「……」を使って省略した。なお、文章が続く場合、途中で切って終止形にしたものもある。

〔例〕 ……あるを知り…… → ……あるを知る。

一、少しでも多くの名言を知るために、あえて必ずしも一致しない類語・反語をも選んだ。

一、類語・反語の選択にあたっては、各種名言事典を参照した。

一、類語・反語の人物名には、国名（外国の場合）・時代・専門を入れたが、本事典に収録した人物については名前のみとした。

〔例〕 （パスカル／仏・17Cの哲学者）

一、主要著作の項は版本・単行本だけでなく、論文も収載した。ただし、全集・著作集など年譜・解題・解説があるものは、参考図書の項へ入れて、著作と区別した。

一、原文に句読点が全くない場合、適宜に句読点を付した。

一、原文に執筆者が注記をつける場合、原著書の（ ）と区別するため、「 ー 」で示した。

〔例〕引用原文……イントリンシック〔本質的〕……

（高山樗牛）

一、原文が漢文・英文・蘭文のものについては、おのこの訓み下し、あるいは日本語に直し、その旨、（原漢文）（原英文）などと注記した。

一、難解な漢字には振仮名を付したが、振仮名は全て現代仮名遣いとし、原文についている振仮名も現代仮名遣いに改めた。

一、目次には収載人物ごとに名言の冒頭を収録し、下段に「国家」「人生」というように、その名言の内容が分るようにテーマ別に分類した。分類項目は次のとおりである。

国家・社会・政治・経済・文明・文化・理想・真理・永遠・平和・革新・進歩・制度・自然・宗教・神仙・信仰・悟り・救い・慈悲・道徳・道理・人格・誠・善・悪・欲・武士道・女性・愛・生活・人間・人生・処世・義理人情・成功・行為・経験・目的・価値・名誉・責任・權利・義務・自由・平等・正義・幸福・健康・病氣・生死・仕事・金錢・自己・心・真心・思いやり・良心・正直・信念・決断・勇氣・意志・覚悟・努力・反省・懷疑・知性・知恵・

悲しみ・苦悩・孤独・無常・沈黙・墮落・恥・歴史・科学・芸術・美・文芸・言語・哲学・学問・教育・教養・修養・趣味・読書・旅

日本の
思想家
名言事典
目次

凡 例

会沢正志斎——神道と儒学の結合

国の体たる其れいかんぞや。夫れ……………〔国家〕
 此一事のみを守らんとして、国の……………〔国家〕
 昔者、天祖、神道を以て教を設け……………〔道徳〕
 賢君は己に奉公ふりをするものを……………〔政治〕
 民命は聖天子の尤重じ給ふ所なり……………〔政治〕
 神州は開闢以来、天照皇太神の恩……………〔道徳〕

3

芥川龍之介——機知の美学

我我を恋愛から救ふものは理性よ……………〔愛〕
 人生を幸福にする為には、日常の……………〔幸福〕
 大作を傑作と混同するものは確か……………〔芸術〕
 人生は落丁の多い書物に似てゐる……………〔人生〕
 わたしは良心を持つてゐない。わ……………〔良心〕
 自由は山嶺の空氣に似てゐる。ど……………〔自由〕
 機智に対する嫌惡の念は人類の疲……………〔知恵〕

7

阿部次郎——新理想主義の追求

愛とは他から奪ふことではなくて……………〔愛〕

11

安倍能成——反骨のリベラリスト

新しい情熱は常に新しい哲学を要……………〔学問〕
 教養とは自分を造りあげることで……………〔教養〕
 芸術の内容は人生である。故に芸……………〔芸術〕
 日本を愛するとは既成日本を世界……………〔愛〕
 ただ自分たちのためにする團結で……………〔理想〕

15

天野貞祐——生粋のカント主義者

文化は自然を征服するよりも自然……………〔文化〕
 我々にとつて最も究極的な最も全……………〔人格〕
 哲学は帽子でなくて頭であり、胸……………〔哲学〕
 人間は悉く道徳的であるべきであ……………〔道徳〕
 神は俯して愛しない。……………〔神仏〕
 読書は休養であると共に又一つの……………〔読書〕
 兵力も財力も領土も道徳性を失つ……………〔道徳〕
 個を殺して全を生かし能わぬこと……………〔生活〕
 人間にとって環境は単に与えられ……………〔人生〕
 幸福は受け取られるべきものでは……………〔幸福〕
 教養とは精神に付屬的でなくして……………〔教養〕

19

3 1

新井白石——文化の探究者

23

其教法を説くに至りては、一言の……………〔学問〕
 学文の道におゐて、不幸なる事の……………〔学問〕
 本朝天下の大勢、九変して武家の……………〔歴史〕
 神とは人なり。我國の俗、凡其尊……………〔神仏〕
 よろしく度るに事変の権を以てす……………〔政治〕

荒畑寒村——社会主義七九年

27

イギリスでは、「羊が人間を食つ……………〔経済〕
 日常の生活条件そのものが、大衆……………〔生活〕
 革命は一の階級がその意志を他の……………〔革新〕
 死なばわが／むくろをつつめ戦い……………〔生死〕

安藤昌益——真理の探究

30

転定には上下なくして一体なり。……………〔人生〕
 生死のことは、無始・無終なる活……………〔生死〕
 夫れ自然は、始めもなく終りもな……………〔自然〕
 自然とは、互性妙道の号なり。互……………〔自然〕
 上に立ちて教え導く聖人なければ……………〔真理〕
 五行は無始無終に自り然るなれば……………〔自然〕

石川啄木——感傷と革新の歌人

34

「近代的」といふ言葉の意味は、……………〔進歩〕
 願はくば一生、物を言つたり考へ……………〔仕事〕
 人間の有しうる絶対の自由は「虚……………〔自由〕
 歌は私の悲しい玩具である。……………〔文芸〕

石田梅岩——心学の確立者

37

儉約は財宝を節く用ひ、我分限に……………〔金銭〕
 性を知りたしと修行する者は、得……………〔修行〕
 神仏聖人は渾然たる一理にして而……………〔宗教〕

一 休——破戒と悟達の禪者

40

清浄本然、大千を現す、現前の境……………〔宗教〕
 一切のもの一度空しくならずとい……………〔宗教〕
 真実般若の智慧といふは妄想分別……………〔智慧〕

一 遍——独一念仏の行者

43

機法不二の名号なれば、南無阿弥……………〔神仏〕
 万事にいろはず、一切を捨離して……………〔生死〕
 譬へば火を以て物に点じ、心に燒……………〔信仰〕

伊藤仁斎——人間愛

47

我能く人を愛すれば、人亦我を愛……………〔愛〕
 それ道徳盛んなるときは、則ち議……………〔道徳〕

凡そ人の過ちにおけるは、由無く……………〔生活〕
人の外に道無く、道の外に人無し……………〔道德〕
それ人情は古今と無く華夷と無く……………〔義理人情〕

伊藤 東涯——歴史・制度への反省……………50

大抵西土の礼、固に古今の変有り……………〔制度〕
中国は已に開くるの蛮夷なり、蛮……………〔国家〕
けだし訓詁の諸儒、その人皆経師……………〔学問〕
人は悪を為すと雖も、その惡為る……………〔善〕

井上 円了——護國愛理の仏教者……………53

夫れ円了の道たる、差別の中に無……………〔哲学〕
人誰れか生れて國家を思はざるも……………〔真理〕
精神の儉約とは、無益若しくは有……………〔処世〕

井上 哲次郎——觀念論の先驅……………56

個人的の我は迷いで世界的の我は……………〔悟り〕
ソクラテスの生命は奪ふことが出……………〔人格〕
人間は一人だけ完全な人格者に成……………〔人間〕

井原 西鶴——処世の知恵……………59

生あれば食あり。世に住むからは……………〔人生〕
とかく少年の時は、花をむしり、……………〔教育〕

憂ふるものは、富貴にして愁ひ、……………〔生活〕
欲は人の常なり、恋は人の外なり……………〔愛〕
一日まさりになじめば、人ほどか……………〔人間〕

岩野 泡鳴——刹那・盲動としての生……………62

存在は盲目で、道德的に云へば無……………〔目的〕
苦痛があればあるだけの苦痛に……………〔人間〕
人生は醉生夢死でいい。どうせ悟……………〔人生〕
人間の世界なり人生なりは、實際……………〔自己〕

植木 枝盛——自由民権運動の指導者……………65

吾に天無し。我を以て天と為す。……………〔自己〕
心を世界の内に置くものは醜態を……………〔自由〕
天上天下唯我独尊とは是れ即ち以……………〔自由〕

上田 秋成——人間性の洞察……………68

心放せば妖魔となり、収むる則は……………〔惡〕
人は親のたま物ぞ。世のわたらひ……………〔人間〕
すべて忠臣・孝子・貞婦として名……………〔幸福〕
只いさぎよからんとも濁らんとも……………〔人生〕
師のすじに入つて、又其すじを出……………〔学問〕
智といふは大かた惡才なり。……………〔惡〕

植村 正久——権力と精神の自由……………72

政治上の君主は良心を犯すべから……………〔義務〕
人は宗教的存在者なり。真正の……………〔宗教〕
社会をして武士道の昔に復らしめ……………〔武士道〕

浮田 和民——倫理的国際主義の提唱……………75

夫れ權利は天賦にあらず。自然に……………〔人間〕
人は満足によりて活きず、信仰と……………〔信仰〕
個人の人格が絶対の価値ある処よ……………〔人格〕

内村 鑑三——二つのJ……………78

二つの美わしき名あり、その一は……………〔理想〕
此世に於ける私共の教会とは何で……………〔自然〕
I for Japan ; Japan for the……………〔神仏〕

栄 西——喫茶の禪者……………81

夫れ仏法は不言なるも経巻に託し……………〔宗教〕
心臓は是五臓の君子、茶は是れ苦……………〔健康〕
大いなる哉、心や。天の高きに極……………〔心〕

海老名 弾正——神の赤子の自覚……………83

神は君で、私は臣である。君主の……………〔神仏〕

人、神を知るはこれ父を知るなり……………〔心〕
基督教徒はキリストを信ず、キリ……………〔人格〕
基督教の本義は教理信条にあらず……………〔宗教〕

大久保 彦左衛門——献身の道徳……………86

御譜代の衆は、よくてもあしくて……………〔仕事〕
此家と申は、第一に御武辺、第二……………〔生活〕
電光朝露、石火のごとくなる夢の……………〔名誉〕

大塩 平八郎——「乱」の首謀者……………89

書は固より道に入るの具なり。然……………〔読書〕
仁は何ぞ独り人のみならんや。山……………〔思いやり〕
人心の奥は太虚を以て鉢と為し、……………〔義務〕
己に反し、之を独知に問ひて、則……………〔自己〕

大杉 栄——自由と生への渴望……………93

元来僕には此の「国」と云ふ觀念……………〔国家〕
美はただ乱調にある。……………〔美〕
生は永久の闘ひである。自然との……………〔人生〕

大西 祝——良心の倫理学……………96

理想的な生活は恰も植物の生長の如……………〔生活〕
世間若し生者必滅会者定離の歎き……………〔文芸〕

満足は不満足の中に求むべし、休……………〔努力〕
 若し天地の帰趣を覗ひ、人生の真……………〔哲学〕
 イデエを観るの瞬間は世の無常の……………〔無常〕

太安萬侶——言葉と文字の先覚者

已に訓に因りて述べたるは、詞心……………〔言語〕
 八雲立つ出雲八重垣、妻籠みに入……………〔愛〕
 さねさし相模の小野に燃ゆる火の……………〔愛〕

大原幽学——天地の和

蓋し人は天地の和の別神靈の長た……………〔人生〕
 人は天地の和と同じき気精あるを……………〔道徳〕
 古しへより天下の政廢して天下乱……………〔国家〕

丘 浅次郎——進化論の推進者

些細な迷信でも、一つを黙認すれ……………〔人間〕
 自然の復讐の最もはげしく最も慘……………〔自然〕
 人間の社会においても最も墮落す……………〔社会〕

岡倉天心——ロマンに殉ずる使徒

アジアは一つだ。……………〔文明〕
 私が死んだら、悲しみの鐘を鳴ら……………〔愛〕
 もし文明が、おそろしい戦争の榮……………〔文明〕

荻生徂徠——模倣の意義

学の道は倣倣を本と為す。故に孟……………〔学問〕
 今学者訳文の、学をせんと思はば……………〔学問〕
 氣質は何としても変化ならぬ物に……………〔人格〕
 古を視て辞を修め、これを習ひこ……………〔教育〕
 人を用ひ候には、其長所を取て短……………〔知恵〕
 君子は軽しく人を絶たず、亦た軽……………〔成功〕

折口信夫——新しい古代学

神ここに 敗れたまひぬ——。す……………〔神仏〕
 身分の高い幼い人が流されるとい……………〔信仰〕
 まればとは古くは、神を斥す語で……………〔神仏〕

貝原益軒——身体論への出発

心は楽しむべし、苦しむべからず……………〔健康〕
 学は覚なり、知らざる所を覚悟す……………〔懷疑〕
 人生れて学ばざれば、生れざると……………〔学問〕

海保青陵——学問の使命

学問と云ふは古へのことにくわし……………〔学問〕
 筋は天にあり。筋を取り分るは人……………〔人間〕
 天下の人は皆天より生を受けて居……………〔自由〕

孔子曰とありても、理に合はぬは……………〔道理〕
木をこしらゆるは天地なり。人は……………〔人間〕
天地の間のことは皆理なり。皆理……………〔道理〕

賀川豊彦——贖罪愛の実践……………125

キリストの贖罪愛においてのみ、……………〔愛〕
労働は一個の芸術である。絵を画……………〔仕事〕
剣が社会を作っていた時は、もう……………〔愛〕
一枚の最後に残ったこの着物神の……………〔信仰〕

柏木義圓——非戦と平和……………128

我にして平和の方針を取り、国民……………〔平和〕
真骨頭ありて唯真理其物、愛其物……………〔信仰〕
今や思想の自由を妨ぐるものは忠……………〔自由〕
見ゆる所の者は暫時にして、見へ……………〔永遠〕

勝海舟——恬淡な個と公なる国家……………131

後来天下の大勢は、門望と名分に……………〔国家〕
おれがおもふには、是からは日本……………〔覚悟〕
なんでも大胆に、無用意に、打ち……………〔決断〕

加藤弘之——利己を本とす……………134

神が造物主でなくて人間が造神主……………〔人間〕

凡そ自然力なるものは絶対的に此……………〔自然〕
利他心が本来存在するものに非ず……………〔生活〕
蓋し自由権は天賦にして安寧幸福……………〔自由〕

金子筑水——哲学と文芸との抱合……………138

現実生活を離るる能はずば、我れ……………〔生活〕
自我の中心が深くより動かされて……………〔自己〕
宗教的生活とは他にあらず、有限……………〔宗教〕

鴨長明——無常観と浄土……………142

ゆく河の流れは絶えずして、しか……………〔無常〕
静かなる暁、このことわりを思ひ……………〔孤独〕
「ここにて阿弥陀仏のいらへ給へ……………〔信仰〕」

賀茂真淵——人間と自然……………145

凡物は理にきとかかることは、い……………〔道理〕
天の下には事多かれど、心とこと……………〔言語〕
後世人は其時の師の伝へをのみ守……………〔学問〕
古へは只詞も少く、こと少し。こ……………〔言語〕
大和国は丈夫の国にして古へはを……………〔文化〕
世の中の生るものを、人のみ貴し……………〔自然〕

河上肇——マルクス主義への長い道……………149

真理だけは、——誰が先に手を着……………〔真理〕	
刑務所といふ所は、大学などと違……………〔良心〕	
宗教的真理が問題とするところは……………〔宗教〕	
社会組織の善悪は寿司の押し方に……………〔社会〕	
北 一 輝——「昭和維新」の構想者……………	152
革命とは順逆不二の法門であり、……………〔革新〕	
国家は法律の擬制によりて作られ……………〔国家〕	
弥陀の手に利剣あり。左手に自由……………〔信仰〕	
北 畠 親 房——戦乱と歴史……………	155
代くだれりとてみづからいやしむ……………〔人生〕	
およそ男夫は稼穡をつとめて、お……………〔生活〕	
日月は四州をめぐり、六合を照ら……………〔正直〕	
北 村 透 谷——精神の自由……………	158
造化は人間を支配す。然れども人……………〔自然〕	
正当に恋愛するは、正当に世を辞……………〔愛〕	
このおれてふ物思はするもの、……………〔自己〕	
世界は意味なくして成立するもの……………〔進歩〕	
極めて拙劣なる生涯の中にも、尤……………〔仕事〕	
木 下 尚 江——神と社会主義……………	162

家族主義は家長専制主義なり、妻……………〔政治〕	
階級と屈従とは軍隊主義の生命な……………〔平和〕	
我等の立場は権力では無い、愛だ……………〔社会〕	
僕は「神」といふ言葉なしには、……………〔自己〕	
この陰影の奥の見えないもの、そ……………〔神仏〕	
試に我等の事業を看よ。明治の文……………〔文明〕	
紀 貫 之——花鳥風月の歌人……………	166
やまと歌は、ひとの心を種として……………〔美〕	
やどりして春の山辺に寝たる夜は……………〔自然〕	
むすぶ手の雪ににぎる山の井の鮑……………〔愛〕	
夢とこそ言ふべかりけれ世の中に……………〔無常〕	
清 沢 満 之——浄土教の宗教哲学……………	169
吾人の世にあるや、必らず一つの……………〔修養〕	
如来は、私の一切の行為に就いて……………〔信仰〕	
独立者は常に生死巖頭に立在すべ……………〔覚悟〕	
自己とは他なし、絶対無限の妙用……………〔自己〕	
我等は死せざる可らず。我等は死……………〔生死〕	
空 海——真言密教の大成……………	173
まさに知るべし、万法は唯心なり……………〔心〕	
境、心に随つて変ず。心垢るれば……………〔心〕	

仏法はるかにあらず、心中にして……………〔宗教〕
 三界の狂人は狂せることを知らず……………〔生死〕
 竊におもんみれば、三学途を殊に……………〔修養〕

国木田独歩——抒情的自然の発見……………177

余に道德なし、自ら羞ちると羞ぢ……………〔恥〕
 それ世界ありて天地あるに非ず。……………〔自然〕
 昔の恋は詩で今の夫婦は散文であ……………〔愛〕

熊沢蕃山——外来思想と日本の風土……………180

儒道、神道、仏道、みな明知の人……………〔道德〕
 日新の学者は、今日は昨日の非を……………〔進歩〕
 書はたとへば雪中の兎の足跡なり……………〔知恵〕

桑木敬翼——遊戲の哲学……………183

芸術は芸術的遊戲でなければ大芸……………〔芸術〕
 人生を解決せんとするものは先づ……………〔人生〕
 人生は努力なり、活動なし、而し……………〔苦惱〕

源 信——日本浄土教の先驅者……………186

念仏を勧むるは、これ余の種々の……………〔修養〕
 遙かに十万億の国土を過ぎて安養……………〔反省〕
 妄念のうちより申し出したる念仏……………〔悟り〕

幸徳秋水——社会主義の實踐……………190

教育や以て多大の智識を与ふ、未……………〔政治〕
 人の天真を見んと要せば、其尺牘……………〔人格〕
 金錢の爲めに文を作る。之より痛……………〔金錢〕

小崎弘道——国家と宗教……………193

国家の成立に欠くべからざるもの……………〔国家〕
 我国現今の大患は法律ありて道德……………〔道德〕
 自由の国自由の民何ぞ天下を睥睨……………〔国家〕
 国家の元氣の消長は道德宗教の盛……………〔国家〕

西 行——隱遁と和歌……………196

世の中を思へばなべて散る花のわ……………〔人生〕
 心なき身にもあはれは知られけり……………〔自然〕
 葉隠に散りとどまれる花のみぞ忍……………〔愛〕

最 澄——菩薩道の精神……………199

解脱の味、独り飲まず、安楽の果……………〔悟り〕
 悪事は己れに向かへ好事は他に与……………〔慈悲〕
 道心の中に衣食あり、衣食の中に……………〔修養〕

坂口安吾——「孤独」への沈淪……………203

人間は生き、人間は堕ちる。この……………	〔墮落〕
私はいつも神様の国へ行こうとし……………	〔墮落〕
桜の森の満開の下に秘密は誰にも……………	〔孤独〕
佐久間象山——近代の先駆的思想家……………	205

東洋道徳と西洋芸術、精粗遺さず……………	〔道徳〕
宇宙に実理は二つなし。この理の……………	〔真理〕
予年二十以後は、乃ち匹夫の一国……………	〔人生〕
天地の間のことは、理・法・情の……………	〔道理〕
たとひ今日に死すとも、天下後世……………	〔信念〕
佐藤 一斎——自己省察の学問……………	209

緊くこの志を立てて、以てこれを……………	〔学問〕
真に大志ある者は、克く小物を勤……………	〔知恵〕
雅事は多くこれ虚なり。これを雅……………	〔生活〕
少くして学べば壮にして為すあり……………	〔処世〕
怠惰の冬日は、何ぞそれ長きや……………	〔人生〕
凡そ事を作すには、須らく天に事……………	〔成功〕
沢柳政太郎——新教育運動の推進……………	213
凡そ教としては、平凡なるものが……………	〔教育〕
知らないのは恥でない、知ろうと……………	〔恥〕
学校教育に於て初めて共同の精神……………	〔生活〕

慈 雲——正法律の開創者……………	216
-------------------	-----

一切の事須らく律に依りて判ずべ……………	〔道徳〕
世間戒も出世間戒も、声聞戒も菩……………	〔宗教〕
菩提心の成ずるところは戒行なり……………	〔宗教〕
慈 円——道理の歴史観……………	220

世の道理のうつりゆく事をたてむ……………	〔道理〕
とてもかくても物の道理の重き軽……………	〔処世〕
三世に因果の道理と云物をひしと……………	〔道理〕
志賀重昂——ナショナルリズム地理学……………	223

想ふ、浩々たる造化、其の大功の……………	〔美〕
完全なる衣食住の料を十分に同胞……………	〔生活〕
天地の間、何物か美ならざらんや……………	〔自然〕
島崎藤村——大いなる自然と生命……………	227

旧いものを毀そうとするのは無駄……………	〔革新〕
人力の限りあるを知るのが自信だ……………	〔知恵〕
人はいかなる物をも弄ぶやうに成……………	〔人間〕
年若い時分には、私は何事につけ……………	〔経験〕
私の願いは自分等の後から歩いて……………	〔知恵〕

聖徳太子——日本仏教の礎石——

230

篤く三宝を敬え。三宝とは仏法僧……………〔宗教〕
 怨を絶ち瞋を棄て、人の違えるを……………〔処世〕
 世間は虚仮にして、唯だ仏のみ是……………〔神仏〕

親鸞——根源的な道理——

233

自然といふは、自はをのづからと……………〔自然〕
 善人なをもて往生をとぐ、いはん……………〔宗教〕
 念仏せんひとびとは、かのさまた……………〔慈悲〕

菅原道真——勤勉多感な官人政治家——

236

家を離れて三四月 落つる涙は百……………〔孤独〕
 生衣は家人を待ちて著んとす 宿……………〔生活〕
 言笑を思うごとに、在るがごとく……………〔悲しみ〕

杉田玄白——蘭学の祖——

239

医は生涯の業にして、とても名人……………〔進歩〕
 およそ患者を療するに、難治の病……………〔仕事〕
 首めを唱うる時にあたりては、中……………〔決断〕

鈴木正三——世法と仏法の禪者——

241

売買をせん人は、先ず得利の益へ……………〔仕事〕

小利を捨て大利に至るべき事。……………〔処世〕
 己に勝つを賢とし、己が心に負け……………〔心〕
 農業則仏行なり。意得惡時は賤業……………〔仕事〕

鈴木大拙——無位の真人——

244

宇宙苦を見るのは大智であるが、……………〔悟り〕
 宗教家は覆えすことのできない所……………〔理想〕
 人間の知性はどこかに中心をおく……………〔知性〕
 おかげさまは、人間でなくては十……………〔生活〕
 自由を知ること、知ることの自……………〔自由〕

世阿弥——「花」と「幽玄」——

248

抑花と言ふに、万木千草に於いて……………〔芸術〕
 秘する花を知る事。「秘すれば花……………〔美〕
 幽玄の風体の事、諸道・諸事に於……………〔美〕

清少納言——美意識の形成——

252

ふと心劣りとかするものは、男も……………〔言語〕
 万づのことよりも、情あるこそ、……………〔女性〕
 人の容貌は、をかしうこそあれ。……………〔人間〕
 うちとくまじきもの。似而非もの……………〔生活〕
 世の中に、なはいと心憂きものは……………〔愛〕
 生ひ先なく、またやかに、えせざ……………〔女性〕